

グループホームけいあい(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 19 年 8 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870500137
法人名	社会福祉法人 光明寺福祉会
事業所名	グループホーム けいあい
所在地	福井県大野市牛ヶ原154-1-1 (電話) 0779-65-7132

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月29日

【情報提供票より】 (19 年 6 月 1 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 14 年 12 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人、非常勤 0人、常勤換算 4.2人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨耐火 造り	
	2 階建ての	~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	179 円	昼食	284 円
	夕食	263 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4)利用者の概要 (6 月 1 日 現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	2
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86.3 歳	最低 78 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	渡辺医院・山崎歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、法人が運営する複数の施設に囲まれた中に位置し、静かで落ち着いた環境に立地している。建物は鉄骨2階建てで、1階は老人保健施設のユニット部となっており、2階部分のグループホームへはエレベーターによる出入りとなっている。グループホームと老人保健施設のユニット部とは職員の兼務による相互協力があり、看護師・栄養士が配置されていることで家族の安心を得ている。管理者は、開設当初より中心的に職員相互の研鑽に取り組み、医療機関やケアマネジャー、行政等関係機関とも連携し、認知症高齢者へのケアの質の向上を目指してきた。異動による職員の交代はほとんどなく、馴染みの関係が保たれているため、職員は入居者と家族のように親しみ、持てる力を少しずつ引き出す支援を心がけ、できることが増えていく喜びを共有しようとしている。このような入居者本位の姿勢が家族からの厚い信頼につながっていることが、家族アンケートからもうかがえる。一方、介護保険法の改正でグループホームが地域密着型サービスに位置付けられたことにより、これまで以上に地域とのつながりの意義を認識し、運営推進会議における意見交換を積極的に行っている。今後は、複合的な福祉施設としての信頼と安心を生かしつつ、グループホームの特性と質の高いサービスを地域にアピールする意味でも、ホーム独自のパンフレットや広報による周知等に取り組みされることも期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善課題については、全職員で取り組み、改善の成果がみられる。ホームまでの案内表示については、敷地内の要所に矢印が設けられ、入口を示す足型のペインティングが施され、改善されている。また、介護計画の見直しについては、経過記録に基づきモニタリングを行って、次の計画に反映させる方法に改められている。一方、地域社会との交流については、運営推進会議においても協議し、メンバーの理解と協力が徐々に現れてきているが、引き続き、今後の取り組み課題として自己評価にあげられている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各職員が自己評価を行い、さらに全員で話し合っ自己評価がまとめられている。職員は、自己評価を通じ日々のサービスを振り返り「見直しができて、よかった」と述べている。自己評価票、外部評価報告書をホームのカウンターに開示しており、職員、家族、入居者の誰もがいつでも閲覧できるようにしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議では地域交流を重要課題として意見交換がなされている。地域の老人会長や自治会長、公民館長、民生委員等にメンバーとして協力を求め、地域に理解され、参加できる関係づくりを進めるため、ホームの見学や食事会、行事・家族会への招待等積極的に取り組んでいる。その他、外部評価の結果や運営理念の説明、入居者の現状報告を行い、意見交換が行われている。会議の報告をまとめて欠席者へ届け、次回の会議につなげる努力もなされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>面会時には必ず入居者の状況を報告し、個別の記録を見てもらい話し合いをしている。日頃から、家族とのコミュニケーションを心がけており、意見箱によるよりも、直接意見等を聞くことが多い。行事に合わせて家族会や運営推進会議を開催し、参加者全員が意見を交換する機会を設けている。毎月、ホーム便りを発行してホームの状況も報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に散歩等で地域に出かけ、挨拶や言葉を交わしたり、ボランティアの受け入れを行っているが、地域との積極的な連携には至っていない。法人の施設が集合し、独立したエリアを形成しており、地域自治会には属していない。現在、運営推進会議を通して新たに地域との連携をもつ努力がなされており、徐々にではあるが地域との交流が深まることが期待できる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営	1 理念の共有		
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で定めた「やわらかいこころ」という理念をわかりやすく具体化し、新たな基本理念として「五感の刺激を大切に、生きがい・自立、敬愛にあふれた家づくり、地域に開かれたホーム」の4項目を掲げている。また、それぞれの項目に生活や地域に密着した入居者本位のケアの内容が具体的に示されており、職員間で協議し、作成した経緯もうかがえる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者家族から信頼されるホームを目指して職員自らで作り上げた理念であり、日常業務の指針として共有し、定着してきている。理念に適ったケアができているかどうか、お互いに気づきを促すなどその場での振り返りがなされている。		
		2 地域との支えあい			
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩・買物等で外出した時、地域の人と挨拶や言葉を交わす馴染みの関係ができている。地域交流については、運営推進会議でも重要事案として協議されており、小学校の運動会への参加・高校生ボランティアとのふれあい、公民館主催の行事等の情報が得られるようになってきている。		自治会、老人会への加入や行事参加までには至っていないが、今後運営推進会議や関係機関の協力を得て地道に地域交流を推進されることを期待したい。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価について、「業務を見なおし・仕事に生かせる」と前向きに取り組み、「一つ一つよく考え参考になった」と評価の意義を理解している。前回の評価の改善事項も職員間で真摯に取り組み、運営推進会議においても協議されている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年7月より2か月毎に開催し、地域関係者や行政、入居者・家族等への運営や課題等の報告、意見交換を行っている。回数を経るごとにホームの理解が深まり、建設的な意見が出るようになっていく。		
	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のケアマネジャー会議やホーム便りを配りに行く時等定期的に訪問するほか、市担当者には市内唯一のグループホームとして相談や指導を受け、家族会への参加等来訪を要請し連携をしている。また、介護相談員も月1回来訪し入居者の相談に応じている。		
		4 理念を実践するための体制			
	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時は必ず状況を報告し個別記録の閲覧と説明を行い、個々の家族とのコミュニケーションを大切にしたい取り組みがなされている。また、毎月ホーム便りを発行し、ホームの状況を報告している。		
	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが投函されたことはない。直接口頭で意見を聞いたりすることが多い。また、家族会があり、運営推進会議や食事会等行事を行い、家族の意向を聴く取り組みが積極的に行われている。		
	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として、ホーム内の馴染みの関係の大切さを理解しており、異動は最小限に止められている。退職者が出た時も、併設の老人保健施設の兼務者の異動が行われており、万一新任職員の場合は、入居者と関わるにあたって、一定のプロセスを経て、馴染みながらの支援が行われる仕組みになっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、研修や資格取得を推奨している。研修に配慮した勤務調整、研修内容の報告等職員間の協力・共有が積極的に行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡協議会に属し、定期的な会合や催しに参加し意見交換や情報等を得ている。また、ケアマネジャーの見学会を行い、意見を求め、サービスの質を高める取り組みがなされている。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に必ず本人による見学や入居体験を行い、納得の上での利用を前提としており、かかりつけ医や訪問看護の継続、家族の面会等安心感もてる取り組みを行っている。また、職員も入居者の気持ちに沿う話し掛けや他の入居者との仲立ちをしてホームに馴染めるようきめ細かな支援を心掛けている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	郷土料理や伝統料理等入居者から多くのことを学ぶこと、昔のことや得意なことを聞き、そのことを生活に反映させることで入居者と喜びを共有することができること、また、土地のことばで話すことで親子のような親しみや信頼が生じてくると職員が思いがヒヤリングにて確認できた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメントにおいて入居者の生活歴等家族からの情報を得るよう努め、一方、入居者の聞き役になってどのような思いをもち、どのような生活をしていきたいかの把握に努めている。アセスメントは認知症高齢者ケアマネジメントセンター方式を活用している。		アセスメントの記録がないところも見受けられるため、入居者の思いや意向を全人的に把握し、入居者本位のケアに活かすためにもセンター方式の更なる活用を期待したい。
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当の職員が入居者の状況や課題、家族の意向を把握し、主治医等の関係者の意見も踏まえて、ケア会議で検討し、作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の心身の変化、入居者家族との継続的な話し合いによる意向や思いの把握、介護経過記録や職員の気づきによるモニタリングが行われ、計画の見直しが柔軟に行われている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの指定は受けているが、空室利用のため実際は機能していない。常勤の看護師、兼務の栄養士が配置されているので入院の回避や退院後の看護支援、食事療法の対応を行っており、家族の安心を得ている。		同法人による介護保険の諸事業所が併設し、多機能なサービスが提供されているが、グループホームの諸機能を活かして認知症対応の通所介護や相談事業等に取り組み、地域の核となることを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に継続して受診し、通院に際しては、症状の報告や確認等情報を共有し、担当医との連携をもつことを基本としている。入居者の症状によっては往診に来てもらうなどの支援を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より、ホームでの生活の見極めについては家族と話し合いがもたれており、医療が中心となった時は家族の選択を重視している。重度化し、特殊浴を必要とする状態になった場合には設備面からの限界がある。		終末期のケアについて入居者や家族が不安なく対応できるよう、職員間でも看取りについての話し合いや学習の機会を設け、方針を共有化されていくことが望ましい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄に際しては耳元で声掛けしたり、手を引いていくなどさりげない誘導を行っている。入浴時も自分で洗身してもらい、「洗いましょうか」と確認するなど、入居者のプライバシーとプライドを尊重した支援がなされている。パソコン上の個人情報の管理についてもウイルス対策がとられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者のペースを尊重し、決して急かすことはせず、また、好みや体調を尋ねて無理強いしない支援が心がけられている。入居者の気持ちを大切にすることにより信頼関係ができ、「安心した」という入居者の言葉に励まされたという職員の言葉も聞かれた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは入居者の希望を取り入れ、食材の購入、調理や盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。テーブルは一つに組み合わせられ、入居者・職員と一緒に食事をしている。実際の食事風景では、時間がかかる入居者に対してもさりげない言葉かけがあり、温かい気配りが見受けられた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月、木曜日の午後の時間に設定されている。土曜日に選択入浴を行い希望者が入浴している。季節の趣向として菖蒲湯や柚子湯を楽しむ工夫がなされている。		入居者の希望による入浴が「選択入浴」として実施されているが、今後職員の勤務調整や工夫により入居者が入りたい時にいつでも入れるような体制が徐々に整えられていくことが望ましい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意とすることや当番による役割をお願いして、生活のメリハリと喜びを感じてもらう支援がなされている。実際、耳が遠く会話の少ない入居者が当番として、生き活きた大きな声で「食前、食後の言葉」をリードする場面も見られた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよいときは誘い合って散歩や畑作業を行い、食材の買い物は順番に出かけている。散歩途中で、幼稚園のトイレを借りたり、園児と手をつなぐこともある。外出は五感刺激になることから、積極的な取り組みが行われている。個別の外出は家族の協力を得て行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	戸外へはエレベーター使用となっている。入居者には「エレベーターは家族、職員と一緒に乗る」と話しているの、単独で乗ることはない。廊下伝いに老人保健施設に繋がって開放されており、毎日の散歩コースや交流の場になっている。		エレベーターのボタンにカバーがされていて操作しにくくなっている。入居者によっては閉鎖感を持つことが懸念されるので、ボタンのカバーについては再検討を期待したい。また、入居者の外出の傾向を把握し声掛けや見守り、階下事業所との連携をもつ取り組みも考慮されることが望ましい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の災害対策が整備され、年2回合同避難訓練を実施している。ホームでは月1回、ベランダに集合する避難誘導訓練を行い、「何かあったらベランダへ」と行動できる習慣づけを行っている。法人の施設が集合し、一つのエリアを形成しているため自治会の加入はなく、地域との協力体制はない。		一時避難場所だけでなく、避難・通報・初期消火等マニュアルの定期的な確認、非常時の備品の確保と管理等を職員全体で話し合い、共有されることが望ましい。また、法人としても地域社会の防災組織に属し、協力体制をとられる働きかけを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は兼任の栄養士による栄養チェックが行われ、毎日の食事摂取量や水分摂取量を把握し健康管理している。食事はゆっくりと時間をかけ各自のペースで最後までできるよう、職員と一緒に食卓に着いて支援している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂、台所等日中過ごす共有スペースは各居室に囲まれた中心にあり、入居者が好みの場所でくつろぐことができるよう椅子・ソファ・畳が配置されている。日当たり良いサンルームやベランダがあり、花の水遣りや洗濯物を干すなど家庭の雰囲気を感じて作業ができるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド・電話器以外は私物が持ち込まれ、入り口には各自の手作り暖簾がかかり好みの部屋づくりがなされている。見学した居室はテレビ・整理箱等生活用品の他、家族や犬の写真が飾られ、図書館から借りてきた犬の本も置かれており、居心地良い部屋の様子が確認できた。		

 は、重点項目。

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に開かれたホームを目指し、できる限り、地域で行なわれている行事に参加できるよう努力している		地域にある小学校・幼稚園との交流、左議長などの行事への参加、大野市で行われている行事(文化祭、ふれあい祭り、花火大会など)への参加を続けていくと共に、老人会(連合会主催)行事への参加を検討している
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家族のような信頼関係が持てるように、寄り添えるケアができるように、敬愛にあふれた家づくりを目指している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	常に家族、地域とのふれあいが大切であることを話し、家族、家庭で過ごせる時間を大切にしていきたいことを話している		運営推進会議を通して、徐々にではあるが地域の皆様にも「けいあい」が地域にあることを理解していただけるようになってきていると思う どうしても母体である光明寺福祉会が大きくすべて同じであると思われているところがあり、地域の方にもっと理解していただけるよう努力したい
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に行った時など、近所の方に会ったときには挨拶をしたり、話をしたりする機会をもつようにしている		近所の方で、遊びに来ていただけた方もいたが、おたがいに高齢ということもあり少し途絶え気味である 日常的まで行かなくとも遊びに着いていただけるよう常に声掛けしてきた
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行なわれる行事にはなるだけ参加できるよう心掛けている		老人会等の行事に参加出来るように働きかけているが、住所、会費などの問題もあり思うように改善できていない
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアの受け入れ、福祉相談員の受け入れを行なっている		運営推進会議の場でも、事業所が持っている知識を地域の中で役立てることが出来ないか模索しているが、現実には至っていない
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価での評価を活かし、改善できることを見つけ、より良いホームになるよう努力している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を利用し、意見交換を行なうことでより良いホームになる為に、新しい取り組みができるよう意見をいただき、その中のできることから取り組む努力をしている		現在は老人会への参加、大野市老人センター利用について検討している

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族会への参加、けいあい便りの配布、福祉相談員の訪問受け入れ、公民館、大野市老人連合会への訪問などを行っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	福祉権利擁護事業や成年後見人制度について講習会、勉強会に参加するようにしている		家族などから相談があったときにはこのような事業があることなどの説明をするようにしているが、現在必要な方が居られないこともあり、活用・支援にまでは至っていない
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進員の研修会に毎年参加するようにしている事業所内で虐待などがないように常に話し合い、実践を心掛けている		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、常に不安点、疑問点には十分な説明ができるようゆとりを持った対応を心掛けている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情処理委員会の設置、外部の相談場所などがひと目でわかるような掲示を行なっている 入居者の場合なかなか外部の機関を利用することはできないので訴えをゆっくりと聞けるような時間を持つようにしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には、現在の状態を必ず報告するようにしている 個人カルテをいつでも閲覧できるようにカウンターに置くようにしており、必要に応じて読んでいただくように声掛けをしている 「けいあい」便りを発行している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情処理委員会の設置、外部の相談場所などがひと目でわかるような掲示を行なっている 家族の皆さんとは何でも話せるようにしている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回(必要時にはその都度)会議を開き、意見の交換ができるようにしている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成時にわかっている行事については初めからゆとりを持った勤務を組むように勤めている 急きょ勤務の変更があったときには職員間で話を行い柔軟な対応ができるよう努めている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるだけ馴染みの関係が保てるように心掛けている 法人内移動があった場合には兼務者の中から移動ができる様配慮していただいている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行なわれる研修会になるだけ参加できるよう案内がくるとすぐに回覧したり、希望があれば、参加できるよう勤務体制について配慮をしている 仕事に必要な資格については積極的に習得するよう常に話している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回行なわれるスポーツ大会への参加や、交流会への参加を行なっている 地域で行なわれる勉強会にはなるだけ参加し、他の施設との交流を持つようにしている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務中は常に入居者と共に過ごすことが当たり前になっている 現在のところ特にストレスを軽減する工夫や環境づくりはされていない 職員で親睦会を作り2、3ヶ月に1回程度の交流会を開いている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修レポートの提出、勤務態度、勤務状況を考慮した昇給が行なわれる 資格の習得に応じた資格手当が支給されている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込の時点で、必ず見学や体験をしていただくようにしている 家族からの相談を念頭に起き、本人の希望、訴えを伺うよう努力している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が見学や体験をする前に、担当ケアマネジャーからの情報をふまえて、家族の不安、希望、訴えを伺うよう努力している		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、希望の中で入居した時、ホームで支援していくことができる事、できない事を見極めると共に、家族の協力や本人の理解・納得のもとに最大限の努力・支援を行なえるよう対応している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居あたり、家族や担当ケアマネジャーと相談をしながら、主治医の往診や訪問看護師の利用など今まで利用していたサービスが継続して利用できるように工夫している		入居間もない時期は、家族と相談して面会の回数を増やす、外出する機会を増やす、定期的に外泊するなど本人の状態に応じた支援が出来るよう家族と相談しながら工夫している
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に一緒に過ごすことで、家族のような気持ちで接することができる様努力している 又、入居者の経験に基づいた知恵をいただくことでお互いに支えあえる関係を気付いていけるよう努力している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会でも、家族の皆様の協力なしでは本人の生活やホームが成り立っていかないことを常に話すと共に、家族とも遠慮しないで話し会っていける関係を作れるように努力している		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を理解し、少しでも良い関係を保てるよう支援している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に数回外出する機会を利用し、いつも行っていたマーケットや店屋などの出掛け顔なじみの方に声を掛けて頂いたり、会話を楽しむことができる様時間にゆとりを持たせるようにしている		入居間もない時期は、家族と相談して面会の回数を増やす、外出する機会を増やす、定期的に外泊するなど本人の状態に応じた支援が出来るよう家族と相談しながら工夫している
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が協力する場面を作ったり、常に支えあうことの大切さを話したり、同じ方とばかり過ごさず誰とでも仲良く過ごせるような関係が作れるように職員が間に入りきかけを作るように努力している		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームから併設の施設に移られた方や退所された方、家族の方々とは、今でも挨拶をするなどして声を掛けるようにしている 併設に移られた方が、ホームに遊びに来たり、こちらから会いに行ったりできるように心掛けている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思っている暮らしが継続できるように、本人の希望を踏まえたケアプランが作れるよう、本人となるだけ話すようにしている 希望に応じホームでの対応が適切に出来るように、また家族の協力が得られるように努力している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネジャーとなるだけ話をすることで、把握できるように努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の現在の状態把握や本人ができる事、できない事を見つけるよう努力している		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を取り入れ、主治医(看護師)等の意見を参考に職員全員がそれぞれの意見を交換しながらケアプランを作成するようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化が見られたときには、それぞれがすぐに話し合うことで状態に即した新しい計画書を作成するようにしている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人の記録をつけ(個人カルテ)、月のまとめやプランが達成できているかなどの見直しを行なうことで必要に応じた見直しができるようにしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状態に応じ、柔軟な対応が出来るように努めている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	高校生のボランティア(月1回)、県社協主催のサマーボランティア、福祉相談員の受け入れを行なっている 併設に訪問があったときにはこちらから訪問するようにしている		地域(乾側地区)の方々で、お話ボランティアをしていただける方を探しているがなかなか実現できない (昨年までは来ていただいていたが、体調を崩されてからの訪問が途切れている)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険を使用した他のサービスを受けることは出来ないが、ユニットケア、経費老人ホームとの交流を行なえるように調整をしている		老人会、老人センターの利用を検討したが、思ような結果が得られていない
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	大野市の福祉課や包括支援センターとの連絡を密にするようにしている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医との関係を保つようにしている 必要時には、往診などの対応をしていただけるように病院との関係を大切にしている		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の(月1回)往診を利用し、普段の状態の報告、状態に応じた介護の相談、必要時の検査(認定調査)依頼など、状態に応じた相談ができるようになっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの病院の看護師、訪問看護師などに相談し、いろいろなアドバイスがいただけるようにしている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関や家族との情報交換を行なうことで、受け入れ態勢を整え早期退院ができるようにしている 退院時には情報提供をいただくようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	状態の変化に応じ、その都度々話し合いを行い、以後の方針について検討するようにしている		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	事業所に対応できることできないことなどをふまえ、かかりつけ医、家族と相談しながら今後の変化に対応できるようにしている		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	グループホームを退所して移り住むにあたり、担当ケアマネジャー・施設指導員・医療機関ソーシャルワーカーとの情報交換を密に行いケアが継続して行なっていけるように努めている		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	声がけや個人対応時にはプライバシーの確保を行なうよう心掛けている 個人情報の保護に努めている		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	本人と話をすることで希望を聞き、自分で納得して決めることを大切にしている		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一人一人のペースを大切にした対応を心掛けている 散歩に行きたい方、手芸をしたい方等希望に添って支援できるように心掛けている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	入居説明を行なう時には、馴染みの美容室を利用できるように話している 約半数の方が、馴染みの美容室を利用されている		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	暖かい物、冷たい物の提供、お誕生会の希望献立、季節の食材を使った献立、メニューを考える時には食べたい物を各自から聞き取り入れるなどを心掛け、一人一人ができることを手伝いながら食事の準備や片付けを行なっている		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	買物に出掛けたときには、参加された方の好みのおやつや副食材料を購入したり、家族が好みのおやつなどを持ち込まれたときには、楽しんでいただけるように配慮している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握して誘導(声掛け)するように心掛けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴順番や、仲の良い方との入浴をしていただくなど希望を聞いて入浴できるようにしている 「湯涌湯」「ゆず湯」等季節に応じた入浴方法を取り入れている		職員の勤務に合わせた入浴時間にどうしてもなってしまうので、希望入浴日を設け、自由に入って頂きたいと設置したが、結局は見守りだけで入浴できる方が少ないこともあり対応が難しいが、出来るだけ楽しめる入浴になるよう工夫したい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠薬などをなるべく使用せず、睡眠が取れるように主治医と相談して対応している方もいるが、ゆっくり休めるよう布団を干したり、散歩・体操をしてある程度疲れることをしていただくなど支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人が出来ることの中で係りを持ち、達成することで喜びを感じたり、買物や散歩に出ることなどで気晴らしができる環境を大切にしている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる方に関しては、自己管理ができるように支援しており、買物などに出たときには、手持ちの中から払っていただくようにしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の方の協力を得て本人が出かけたい場所に行くことが出来るよう支援している 天気の良い日には、なるべく外に出るようにしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参りや今まで住んでいた土地、旅行など家族と共に出かけることができるように支援している		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室から電話が掛けられるよう設置してある 家族から電話がかかってきたりしたときにはゆっくりと話ができるように居室で電話を取っていただいている 家族の協力を得て、手紙のやり取りをしている方もいる		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、親戚の方々が面会時ゆっくりとしていってくださっている 家族の方が職員が行っている仕事を手伝ってくださったり、他の入居者の方と談笑される時もある		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の為に講習会に参加し常に勉強することで、職員一同拘束をしないように取り組んでいる		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常階段には鍵がかかっているが併設との間には自由に行き来ができるよう夜間帯を除き鍵を掛けないようにしているエレベーターはすぐに乗って降りることができないようにひと工夫することで鍵を掛けないケアに取り組んでいる		常に入居者の方々に、家族の方もしくは職員と一緒に自由に外に出かけることが出来ることを話しているの、ある程度理解していただけている
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に入居者の方々がどこにいるか把握できる位置にいるようにし、夜間帯は必要に応じて1～1時間半置きに見回りを行い、プライバシーに配慮しながら状態の把握と安全確認を行なっている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じた対応を心掛けている(自分で管理できる方はハサミ、爪きり、針などを持っており自分で必要な時には使用している必要があれば、職員のいるところで使用するようし、見守れる環境を作っている)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルの確認を月1回は行なうようにしている状態の変化に応じ柔軟な対応が出来るように必要に応じて各種勉強会に参加するようにしている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの確認を月1回は行なうようにしている緊急時には、必要な処置を行なう、併設の医者や看護師などの応援を得る、管理者への報告・指示に従い家族への連絡を行なうなど適切な対応が出来るよう心掛けている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練実施している 年2回の併設合同避難訓練を実施している		併設施設全体が地区になっているので、緊急時には緊急連絡網により、光明寺福祉会職員全員で対応できる体制をとっている為、地区以外の方々の協力を得るまでにはなっていないが、協力が得られるような関係を作っていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時等を利用して、現在の状態を話すと共に、これから考えられるリスクについての説明と対応策(ホームで出来ること)について積極的に話すようにしている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定を行い、『いつもと違う』という気付きを大切に、常に体調の変化に気を付け、申し送りを必ずするように心掛けている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテには、現在服用中の薬剤情報が綴られている『服用のしかた』については医者の指示通りできているが、内容や副作用についてはなかなか理解しているまでに至っていない自己管理をしている方には、毎日の箱入れが出来ているか確認するようにしている		常に『いつもと違う』という気付きを大切に、異常時には主治医に相談したり、併設の薬剤師、看護師に相談したりすることで症状の変化に気を付け、早期発見に努めている

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜やきのこ類等のように食物繊維を多く含む食品を中心に調理メニューを立てるようにしている また、多目の水分補給や、毎日運動を行なう等して、薬に頼らないで自然な排便が排泄されるよう取り組んでいる		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを大切にしている 一人ひとりの状態に合わせ、舌みがきを取り入れたり、イソジンなどの薬剤を使用することもある		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と運動による体重管理を行なっている 併設の栄養士に献立を見ていただくことで、必要な栄養が取れているかチェックをしていただいている 口渴感のない方にはなるだけ一口でも水分を取っていただけるよう支援している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成している 事業所内感染が広がらないよう手洗い・うがいの徹底を行なっている 必要に応じて事業所内に張り紙をするなどし、面会者への協力を呼びかける時もある		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は、食器乾燥機を使用したり、まな板・布巾は毎日消毒をするなど清潔に心掛けている 食材料については、なるだけその日の内に使い切るようにしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板の設置、玄関がすぐわかるように印を入れるなど工夫している 玄関周辺には、季節の花を植えるなどして家庭的な雰囲気を出すように工夫している 家族や福祉相談員からは「入ってしやすい」等の声を聞く		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出すことは難しいが、冬季にはコタツを出したり、各自手作りののれんを掛ける等工夫している 季節の花を飾ったり、観葉植物で涼しさを演出したりしている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルーム・畳・ソファ等各自が思い思いの場所で自由に過ごされている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた品々を出来るだけ運んでいただくよう家族の方には常にお願している 各自手作りののれんを飾ったり、家族の写真を飾るなど少しでも居心地良く過ごせるように工夫している		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄の臭いが充満しないよう換気には気を付け、必要に応じて消臭剤を使用している 換気・加湿に気を付け、温度計を設置することでこまめに調整するようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーでの設計になっていることもあり、各自の能力に応じた自立した生活が送れていると思う		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱しやすい方や、入居が日数が浅い方等には居室やトイレ等に表示をしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑やベランダでの家庭菜園を入居者の方に管理していただいている 洗濯物などもホールやベランダで干すことで、各自がいつでも管理できるようにしている		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の誕生日に合わせ誕生会を開いている誕生会のメニューは誕生者の希望する献立を用意し、ゆっくりとした食事会を行なっている季節に応じた新鮮な食材を使用している裏山で取れる筍、よもぎ等や、家族の方が山で取ってきてくださる山菜などを使用して調理をしたり、笹や竹の葉を使いディスプレイした盛り付け等を行なう時もある梅干作り、味噌作り、はまな味噌作り、甘酒作り、しそジュースなど家庭で味わえる入居者の持っている知恵を伝授していただいた食品を献立に取り入れている半夏至、土用の料理、正月のおせち料理作り、餅つき、米寿祝など家庭で行なっている季節に応じた行事を取り入れている